**成人看護学実習Ⅰ　評価表**

実習期間：　　　　　年　　　月　　　日　～　　　月　　　日

学生番号：　　　　　　　学生氏名：

Ⅰ．実習目標の到達度

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 実　習　目　標 | 自己評価 | | | | 教員評価 | | | |
| １. 対象者とその家族の意思を尊重し、さまざまな特性や多様性に応じながら援助的関係を形成することができる。 | | | | | | | | |
| １）対象者の価値観・信条や生活背景を捉え、意思や真意を支える看護を考えることができる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ２）対象者に実施する看護を説明し、理解と同意を得ることができる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ３）自分の課題を意識しながら、対象者とその家族とコミュニケーションをとることができる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ２．周手術期にある対象者の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。 | | | | | | | | |
| １）対象者の疾病の状態、手術・麻酔侵襲をふまえて生体反応、形態と機能の変化を説明できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ２）対象者の回復過程で起こりえる合併症、二次障害を説明できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ３）手術が対象者の心理・社会面に及ぼす影響を説明できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ３．周手術期にある対象者へ、看護過程を用いて看護を実践することができる。 | | | | | | | | |
| １）対象者の状況に応じて看護に必要な情報を意図的に収集できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ２）得られた情報を系統的・継続的にアセスメントできる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ３）アセスメントに基づき、対象者の全体像を関連図に描くことができる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ４）看護問題の優先順位を明確にし、対象者の早期回復に向けた看護計画を立案  できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ５）疾病や治療が対象者とその家族の生活にどのように影響しているのか、看護  計画に反映できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ６）対象者とその家族の価値観やニーズ、強み、ウエルネスを統合的に把握し、  看護計画に反映できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ７）看護計画に基づき、基本的な看護技術を対象者のニーズに合わせて個別の看護実践ができる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ８）看護実践を振り返り、対象者とその家族の状態・反応から適切に評価し、計画を修正できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ９）退院後の生活を見通し、必要な継続看護や社会資源の活用を説明できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| ４．保健医療チームの一員として、報告・連絡・相談、確認の必要性を理解し、指導の下で実践できる。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 | 2 |
| 【評価基準】  少しの助言・指導を受けてできた （5点）100％  助言・指導を受けてできた　　　 （4点） 80％  助言・指導を受けてなんとかできた（3点） 60％  助言・指導を受けてもできなかった（2点） 40％ | ／80点 | | | | ／80点 | | | |
| Ⅱ．実習態度  〔評価基準〕  １．対象者への安全なケアのために、自己の健康管理ができる  ２．積極的に質問し、疑問や不明点の解決ができる  ３．学生としての役割を自覚し、誠実で責任ある行動ができる  ４．学生間のメンバーシップ、リーダーシップの発揮ができる  ５．個人情報保護の遵守ができる | 自己評価 | | | | 教員評価 | | | |
| /5点 | | | | /5点 | | | |
| Ⅲ．カンファレンス  〔評価基準〕  １．事前に準備（資料作成や学習）をして参加できる  ２．グループメンバーと協力して参加できる  ３．自己の考えを述べることができる  ４．グループメンバーの問題を自己の問題として考えることができる  ５．問題意識をもって看護を考えることができる | /5点 | | | | /5点 | | | |

|  |  |
| --- | --- |
| Ⅳ．課題レポート  〔評価基準〕  １．手術中の看護、HCUの看護を安全・安楽の視点から考察している  ２．テーマが明確である  ３．目的が明確である  ４．行った看護実践の事実を明瞭に示している  ５．考察はレポートの目的に基づき自己の考えを論理的に示している  ６．看護実践を省察し、自己の課題を明確にしている  ７．引用文献・参考文献を適切に使用している  ８．誤字・脱字がなく、文章構成が整っている | 教員評価 |
| ／10点 |

|  |
| --- |
| 【最終の自己評価内容】 |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

Ⅴ.総合評価　※実習担当教員が評価する

【合計点　100点】

　S評価：100-90点　A 評価：89-80点　B評価：79-70点　 C評価：69-60点　D評価：59点以下

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 合計点　　　　　　　　　点 | 総合評価　　S・A・B・C・D | 教員氏名　　　　　　　　印 |